

この感想文に、フッ素の使い方、スウェーデンの歯科医療の素晴らしさについて学ぶことができたなどを書くつもりはない。なぜなら今回の研修に参加した目的は教科書的な知識を学ぶことではないことに加えて、それ以上のものを学ぶことができたからである。研修に参加した目的は、歯科先進国と言われているスウェーデンに実際に行くことにより形のない“何か”を直接感じ取ることであった。実際に1週間滞在してみて様々な側面から歯科医療というものを見ることができ、そして、その“何か”を感じ取ることができたと思う。

その“何か”とは“歯科医療の本質”である。

一般的な研修では、細かい手技や知識の習得にフォーカスを当てることが多いが、今回の研修はそのような事を「頭に入れる」のではなく、「自分の頭で考える」ということを目的としていたように感じた。

「我々が治療しているのは歯ではなく患者の脳である」とのダン・エリクソン教授の言葉が非常に印象的であった。なぜカリエスが目の前の患者の口腔内で発症し、進行してしまったのか？これは日常の臨床では忘れられがちなことであるが、これを考えることが1番大切であるとダン・エリクソン教授は仰っていた。なぜ？と患者の背景について疑問を持ち自分の頭で考えることが歯科医療の本質ではないだろうか？

現状の教育制度、国家試験制度では、画一的な知識を増やし、A or B などというどちらかの答えを求めてしまう傾向がある。しかし、そこに患者の背景が考慮に入れられていなければただ問題が起きた“歯”を治療しているに過ぎない。

もちろん講義では、カリエスの進行やフッ化物の使用方法などについてエビデンスに基づいた知識を教えていただくことも多かった。しかし、それ以上にダン・エリクソン教授は“歯科医療の本質”について多くを語ってくれた。

歯科医療哲学を学び、歯科医師としてのターニングポイントにしてほしいとの熊谷先生の言葉があったが、今回の研修はまさに自分の歯科医師としての在り方に大きな影響があるものであったことは間違いない。

歯科医師になって1年、日吉歯科診療所に勤務して3ヶ月が経過したが、今回の研修に歯科医師として早い段階で参加できたことに感謝したい。

これからも、熊谷先生が仰っている「真の患者利益とは？」「王道をブレることなく進む」ということを頭の中に入れ、自分の頭で考え続けることを忘れずに1人の医療者として、そして1人の人間として、社会に貢献し、歯科界を変えていくためにあらゆる事にチャレンジしていきたいと思う。

ありがとうございました。